

活性化に大事なことは、「若手会員の加入促進・登用」
「老人クラブ活性化3か年計画」市区町村老連アンケート結果報告

市区町村老連における実施状況（都道府県・指定都市老連アンケートから）

ほとんどの活動内容で、昨年よりわずかながら実施率が高くなっている。
(昨年までの結果は、本誌24年4月号参照)

1. 健康づくり・介護予防活動の推進

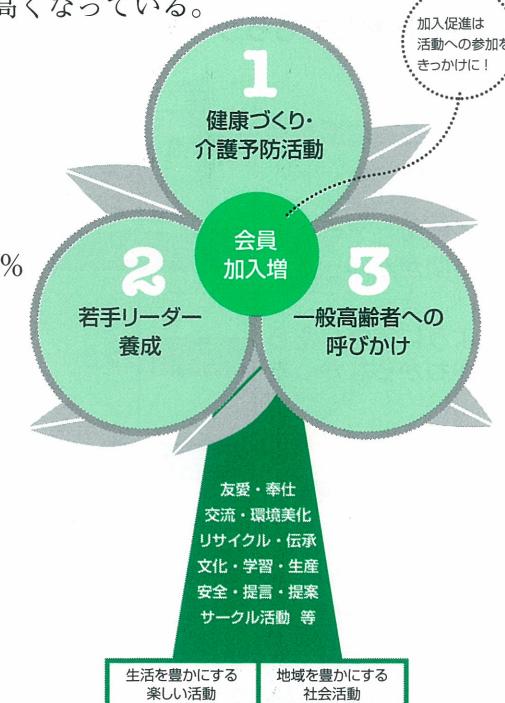
- 学習 健康学習 79%
- 実践 健康ウォーキング 53%、いきいきクラブ体操 51%
- 友愛訪問 84%、見守り・声かけ 75%、サロン活動 54%
- 点検 高齢者向け体力測定 45% ※昨年比2%減

2. 若手リーダーの養成・活用

- 養成 若手リーダーの養成に取り組む 45%
※2年前 30%。最も進んだ
- 活用 若手リーダーを活用している 37%
- 若手高齢者の組織化 24%

3. 一般高齢者（未加入者）への呼びかけ

- 活動への参加呼びかけや体験参加を実施している 79%



平成22年度から提案した「老人クラブ活性化3か年計画」は、昨24年度に3年間を終了いたしました。全老連では今年1月、全国の市区町村老連に対してこの計画の取り組み状況に関するアンケートを実施しました。多くの市区町村老連にご協力いただきましたことを感謝申し上げます。本誌においてその結果を報告いたします。

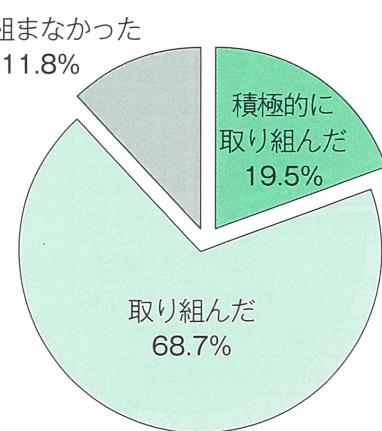
また、例年実施してきた都道府県・指定都市老連へのアンケートによる、市区町村老連における実施状況は、次ページ枠内 のとおりです。

この3年間で、全国段階では残念ながら会員増にはつながりませんでしたが、今回の結果をふまえ、会員増につながるような新たな活性化策を、全老連政策委員会において現在検討しているところです。

●アンケート配布数 1848 回収数 1293 (回収率 70%)
 ・回収率は都道府県・指定都市老連別にみると40%～100%と差が大きい
 ※以下、「老人クラブ活性化3か年計画」は「計画」と省略。
 都道府県・指定都市別、会員数規模別集計等は傾向がみられる場合に記載した。

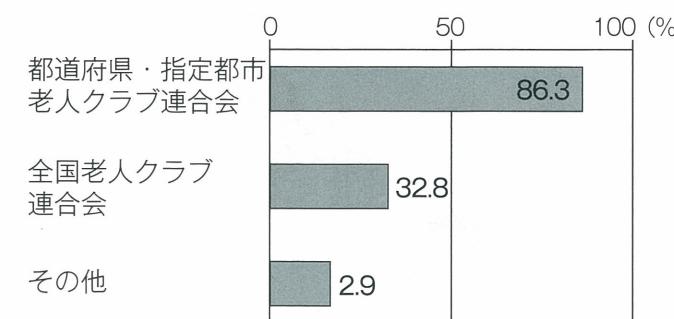
3

9割の市区町村老連が、「計画に取り組んだ」



2

計画は、「都道府県・指定都市老連からの情報で知った」が86%（複数回答）

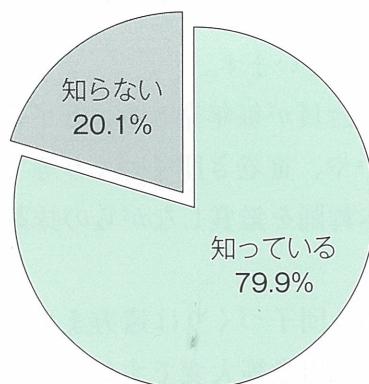


▶「積極的に取り組んだ」老連は、会員規模大きい老連ほど多く、大規模老連では3割になる。

▶「全老連からの情報で知った」は、大規模老連では56%と高い。

1

計画を「知っている」市区町村老連は、8割



▶都道府県・指定都市別集計では「知っている」割合が44～100%と差が大きい。

▶大規模（会員1万人以上）老連で「知っている」割合が高い。

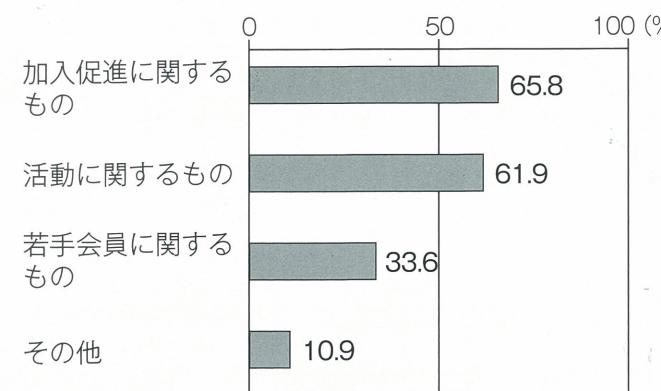
※以下③～⑦の回答は、計画を知っている老連が回答

「若手会員の加入促進・登用」

「老人クラブ活性化3か年計画」市区町村老連アンケート結果報告

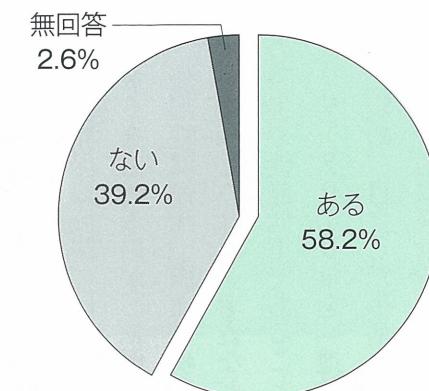
9

「独自の活性化策」の内容は、
「加入促進」66%、「活動」62%、
「若手」34%



▶ 「計画を積極的に取り組んだ」老連に、「若手会員」の回答が多い(48%)。

「独自の活性化策がある」市区町村老連は、6割

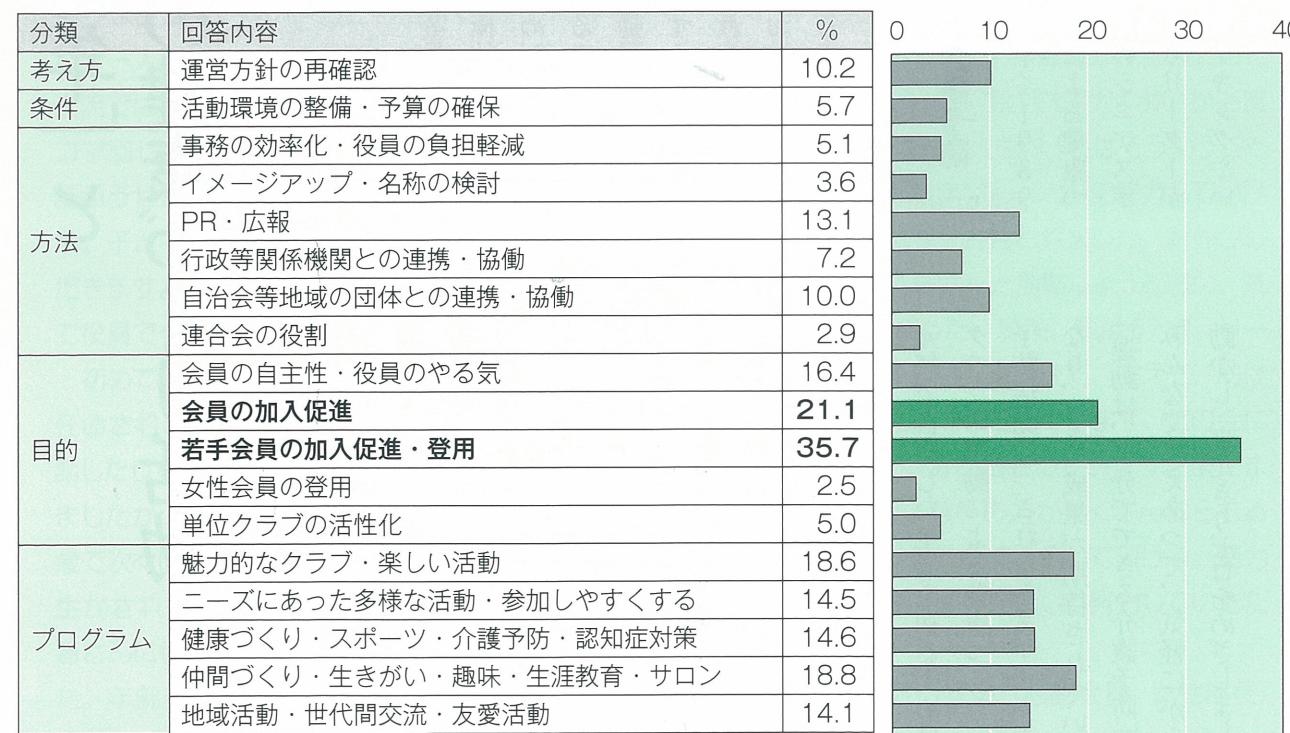


▶ 規模の大きい老連、「計画を積極的に取り組んだ」老連に、独自の活性化策をもつ老連が多い。
▶ 49老連から活性化策の資料を提供いただいた。

10

活性化に「最も大事なこと」ベスト3は、

①若手会員の加入促進・登用、②会員の加入促進、③会員の自主性・役員のやる気

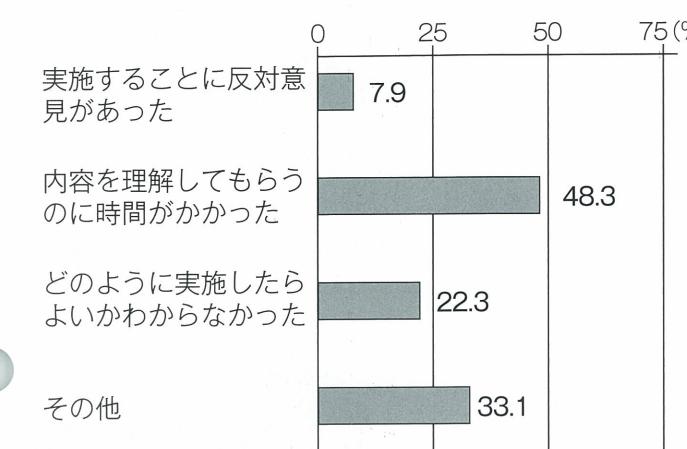


▶ 「最も大事なこと」「大事なこと」別に、自由に記述いただいた。
▶ 「最も大事なこと」は、④魅力ある楽しい活動、⑤仲間づくり・生きがい活動と続く。
▶ 「最も大事なこと」「大事なこと」の合計(表参照)でも、①若手会員、②加入促進の順である。

8

「独自の活性化策がある」市区町村老連は、6割

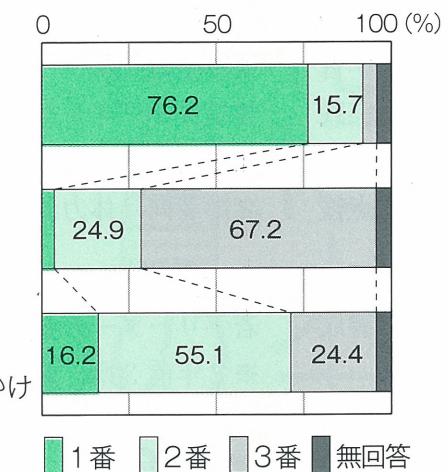
5
取り組みにくかった理由は、
「内容を理解してもらうのに時間がかった」



▶ 取り組みにくかった項目が、「一般高齢者」の老連は「内容を理解してもらうのに時間がかった」が多く、「健康」「若手」の老連は「どのように実施したらよいかわからなかった」が多い。

4

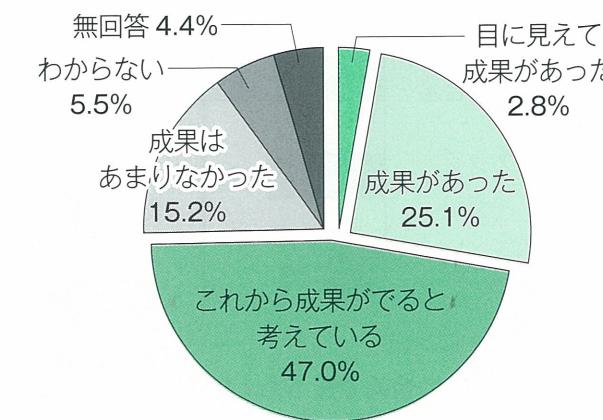
三つの実施項目の取り組みやすさは、
「1番：健康、2番：一般高齢者への呼びかけ、
3番：若手リーダー養成」の順



▶ 「1番：健康」は、規模が大きい老連ほど多い。
▶ 「1番：一般高齢者」としたところは、規模が小さい老連に多い。
▶ 「若手」は、1・2番併せると規模が大きい老連に多い。

7

成果が「目に見えてあった」「あった」は28%、
「これから」は47%、
計75%が積極的に評価



▶ 「若手リーダー」を取り組みやすさ1番にした老連に、「成果があつた」とするところが多い。
▶ 「積極的に取り組んだ」老連は、「目に見えてあった」「あった」が52%と高い。

6

計画推進期間(3年)の長さは、
「適当」が77%

